



## ゆうすいち なん 遊水地って何なの

### おおみず で おおみず で 水 を ためる 土地

ゆうすいち とは、おおみず で 川ぞいにある 湖 やぬま、へいち など、いちじてき 水をためる役目をする土地をいいます。

昔から、人々は、川のはんらんによる水害に苦しめられてきました。川のまわりに堤防を築き、田畑が水につかしてしまうことを防ごうと努力してきました。

霞堤（堤防の途中が切れて連っているもの）を造り、その堤防の切れ目から大水を堤防の外に流し、遊水地に導いて、本流の水位を低くする方法もとられてきました。

最近、堤防の一部をわざと低くして、大水が出たときに、川の水がこの低い部分をのりこえて、流れ出るようにした越流堤が造られています。流れ出た水は、遊水地にたまるようになっているのです。遊水地に水を入れることで、被害が大きくなるのを防ぐことができるのです。

とねがわすいけい わたらせゆうすいち にほんさいだい めんせきやく へいほう ちよすい  
利根川水系の渡良瀬遊水地は、日本最大のもので、面積約33平方キロメートル、貯水  
ようりょう やく おくりっぽう ゆうすいち なか から こうさくち こうえん  
容量は約2億立方メートルです。ふだんは、遊水地の中は空にしてあるので、耕作地や公園  
りょう  
として利用されています。

### めんせき ばい こ 面積が3倍になるトンレサップ湖

カンボジアにあるトンレサップ湖は、メコン川の天然の遊水地になっています。雨季（雨の多いシーズン）になると、メコン川の水がトンレサップ湖に流れこみ、湖の面積は、乾季（雨が降らないシーズン）の3倍にふくれ上がります。これで、メコン川が洪水になるのを防いでいるのです。（監修・保岡 孝之）

